別紙様式１

令和３年度山口県立厚狭高等学校（定時制課程）評価書　校長（ 大下　康一郎 ）

１　学校教育目標

教育目標・・・・・本校の歴史と伝統に誇りを持ち、理想を追求するとともに、未来を切り拓く心豊かでたくましい社会に有為な人材を育成する。
１　学業に励み、真理を探求する態度の醸成
２　誠実で、自主・自律の精神の涵養
３　健全な心と体の育成

中・長期目標・・・１　各学科の特色を生かしたキャリア教育の推進
２　確かな学力の向上を目指した学習習慣の定着
３　自主・自律を目指した基本的生活習慣の定着
４　読書力及びコミュニケーション能力の育成
５　意欲と自信を持って生活する生徒の育成

２　現状分析（前年度の評価と課題を踏まえて）

【学校運営】良好な学習環境を維持するために、閉課程までの４年間を見据えた学校運営体制の検討が必要である。
【学習指導】基礎基本を定着でき、自己肯定感や自信を高めることができた。積極的な学習や資格取得に結びつけていくことが課題である。
【生徒指導】概ね学校のルールやマナーを守ることはできるが、時間に対しての意識が甘くなることがある。
【進路指導】卒業生の在籍がないため十分な進路指導が果たせなかった。コロナ禍において生徒の進路実現のための効果的な指導が求められる。
【環境保健】生活習慣が乱れる場合があり、健康管理・生活習慣の改善に対する意識向上が課題である。
【特別活動】生徒の行事に対する満足度はある程度高いが、より主体性をもって行事に参加できるようになることが課題である。
【図書･情報】一人１台端末が整備され学びの情報化が喫緊の課題である。また、本に親しむ習慣づくりを進め読書活動の定着が必要である。
【学　　年】年度当初、自宅学習のため生活リズムが整わない生徒が多かった。

３　本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

【スローガン】　誰かのために何かのために～ふるさとを愛し、より良い社会づくりに貢献する～
【教育活動推進方針】１　生徒の実態に即した学習活動及び計画的・組織的なキャリア教育の展開
２　規範意識を高め、豊かな人間性を育てる教育の推進
３　コミュニティ・スクールを活用した、家庭及び地域と共に歩む、開かれた学校づくりの推進
【チャレンジ目標】「大きな声で積極的に挨拶をしよう」

Ａ：優れている　Ｂ：よい　Ｃ：おおむねよい　Ｄ：要改善

４　自己評価　／　５　学校関係者評価

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
学校運営	閉課程までの4年間を見通した教育体制の構築	生徒数及び教職員数が減少していく中でも、生徒が充実して学習活動や学校行事に取り組み、希望進路の実現ができる体制を構築する。	4　すべての教育活動で、実施計画や業務分担等の取組改善が行われた。 3　多くの教育活動で、実施計画や業務分担等の取組改善が行われた。 2　いくつかの教育活動では、実施計画や業務分担等の取組改善が行われた。 1　実施計画や業務分担等の取組改善が行われなかった。	4	校務組織を教務部と進路･生徒指導部の2分掌にしたことで各取組を協働して担当する体制が一層強化され、生徒の学びの質の向上につながった。 **【厚狭高アンケート平均※】** **「学校生活に満足」生徒 3.6/保護者 3.9** **【出席率】R2年度93.8→R3年度97.0%**	**校内組織の見直しにより教職員集団にまとまりが生まれ、教育体制や学習支援体制が整った。資格取得を目標にしたことで成果が見えやすく、生徒は取り組み易かったと考えられる。その成果として学校生活の満足度が向上している。**	A
	資格取得に向けた組織的な学習支援	全校生徒が、1種目以上のより上位のビジネス資格を取得できるように全教職員で組織的に指導･支援を行う。	4　１種目以上の上位資格取を全生徒で達成した。 3　１種目以上の上位資格取を７割の生徒が達成した。 2　１種目以上の上位資格取を５割が達成した。 1　１種目以上の上位資格取を５割未満の生徒が達成した。	4	商業科を中心に個々の生徒の達成課題に応じた組織的な指導を行い、目標を達成できた。生徒も達成感を感じ、より上位資格を自らめざすようになった。 **【取得資格数】平均 1.7 種類** **【厚狭高アンケート平均】「学校は学力向上や資格取得に積極的である」生徒 3.7/保護者 3.8**		
情報発信	本校定時制課程の広報活動の推進	定時制課程が担っている役割、運営方針や具体的な取組事例を地域に向けて広報する。	4　地域の方や企業、中学校に定時制の情報発信を３回以上行った。 3　地域の方や企業、中学校に定時制の情報発信を２回行った。 2　地域の方や企業、中学校に定時制の情報発信を１回行った。 1　地域の方や企業、中学校に定時制の情報発信をしなかった。	4	定時制通信により本校の取組、生徒の様子は地域や家庭によく伝わっている。年間目標や重点取組等の理解に向け、伝え方の工夫をしていきたい。 **【厚狭高アンケート平均(保護者)】** **「取組が家庭に伝わった」3.4** **「生徒チャレンジ目標を知っている」2.4**	生徒が努力や活躍した成果が記事に盛り込まれており、効果的に情報発信ができている。	A
学習指導	生徒一人ひとりに最適な学びの実現と基礎基本の確実な習得	生徒の個性や抱える課題に個別に対応した指導、支援を行う。	4　生活アンケートで８０％の生徒が「学力が伸びた」と感じている。 3　生活アンケートで６０％の生徒が「学力が伸びた」と感じている。 2　生活アンケートで４０％の生徒が「学力が伸びた」と感じている。 1　生活アンケートで４０％未満の生徒が「学力が伸びた」と感じている。	4	単元ごとに授業の振り返りを行うなど、学びへの意欲や成果を評価する取組が、個々の達成課題の明確化と適切な個別支援に結び付いている。 **【厚狭高アンケート】「自分に合った学びができている」肯定的回答生徒･保護者とも 100%**	ＩＣＴの活用が進んでおり、少人数を生かしたきめ細かな学習指導が行われている。生徒も学習用端末等を抵抗なく使用し、授業に対して前向きに取り組んでいる。	A
	主体的な学習姿勢の育成	生徒自ら目標を設定し計画をたてて学習をすすめる態度の育成を図る。	4　生活アンケートで80％の生徒が「家庭学習の習慣が身に付いてきた」と回答した。 3　生活アンケートで60％の生徒が「家庭学習の習慣が身に付いてきた」と回答した。 2　生活アンケートで40％の生徒が「家庭学習の習慣が身に付いてきた」と回答した。 1　生活アンケートで40％の生徒が「家庭学習の習慣が身に付いてきた」と回答した。	3	授業や LHR で生徒の自己評価や自己分析を行い、学習習慣の定着の必要性を自覚できるよう働きかけた。引き続き一層の動機付けをしていく必要がある。 **【厚狭高アンケート】「家庭での学習が増えた」肯定的回答生徒67%/保護者 89%**		
	ＩＣＴを活用した深い学びによる思考力・判断力･表現力の育成	ICTの利点を生かして多面的な学びを生み出す授業改善を行う。	4　授業アンケートで80％の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 3　授業アンケートで60％の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 2　授業アンケートで40％の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。 1　授業アンケートで20％未満の生徒が「学校での学習が生活に生かせると思う」と回答した。	4	ほとんどの授業で、生徒とのコミュニケーションツールとしてタブレット端末を活用しており、学びに深まりが見られるようになってきた。 **【厚狭高アンケート】「学習内容を生活に生かしたい」肯定的回答生徒･保護者とも 100%**		

※「厚狭高アンケート平均」:4件法による質問紙調査で、「はい」=4～「いいえ」=1として、全回答の平均を算出したもの。満点は 4.0 になる。

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	時間を意識した行動の定着を図る。	4　８０％以上の生徒が登校や授業の時間を守れた。 3　７０％以上の生徒が登校や授業の時間を守れた。 2　５０％以上の生徒が登校や授業の時間を守れた。 1　登校や授業の時間を守れた生徒が５０％に満たなかった。	3	昨年度に比べ、遅刻や欠席が大幅に減少し、時間を意識した行動が定着してきた。気持ちよく挨拶を交わす生徒も増え、社会性が身に付いてきた。 **【遅刻率】R2年度5.3%→R3年度0.3%**	基本的な生活習慣の確立や社会性の向上に関して向上がみられ、取組の工夫や改善の成果であると考える。定時制生徒による熟議の実施等、さらなる工夫を期待する。	A
	「いじめ」防止	生徒と教職員間で一層コミュニケーションを深めて情報の収集を行い、教職員どうしで共有して生徒支援に取り組む。	4　個人面談や生活アンケートでいじめに係る情報を把握、共有し、取組状況の検討を年４回以上行った。 3　個人面談や生活アンケートでいじめに係る情報を把握、共有し、取組状況の検討を年３回以上行った。 2　個人面談や生活アンケートでいじめに係る情報を把握、共有し、取組状況の検討を年２回以上行った。 1　個人面談や生活アンケートでいじめに係る情報を把握、共有し、取組状況の検討を年１回以上行った。	4	少人数を生かして生徒一人ひとりの現状把握に努め、学校全体で情報共有ができた。学年を超えた活動により対話や協働活動が増え、他者を思いやり、尊重する社会性が芽生えたことで年間を通して「いじめ」に関する事案は無かった。 **【厚狭高アンケート平均】「本校では、いじめは無い」生徒3.8/保護者3.8**		
	地域社会を通した社会性の育成	教育活動を工夫し、地域社会との関わりを積極的にもつ。	4　地域社会を通した活動を年間４回以上実施し、自身の社会へのかかわり方や役割について、考えを確立することができた。 3　地域社会を通した活動を年間３回実施し、自身の社会へのかかわり方や役割について、考えを確立することができた。 2　地域社会を通した活動を年間２回実施し、自身の社会へのかかわり方や役割を思案することができた。 1　地域社会を通した活動の実施回数が年間２回未満であった。	4	地元企業等の協力を得て、積極的に地域社会と連携した活動を実施することができ、生徒が社会への関わりを深めるきっかけとなった。学校運営協議会を活用し、定時制での熟議の実施など一層の取組を進めていきたい。 **【厚狭高アンケート平均】** **「地域の特徴や人材を生かした取組が多い」生徒 3.4/保護者 3.1**		
進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップや生徒の地元就業促進など、地域と連携し、全学年を見通したキャリア教育をより一層推進する。	4　地域と連携したキャリア教育がより一層推進された。 3　地域と連携したキャリア教育が概ね推進された。 2　地域と連携したキャリア教育がいくつかの取組で行われた。 1　地域と連携したキャリア教育が行われなかった。	3	厚狭地域でのインターンシップや事業主による進路講演の実施により、生徒が将来この地域で活躍したいという意識を持つようになった。４年生の就職希望者も、全員が地域や近隣の企業に内定した。 **【卒業生就職先】山陽小野田 2、下関 1** **【厚狭高アンケート平均】「地域の特徴や人材を生かした取組・活動が多い」生徒 3.4/保護者 3.1**	キャリア教育や進路指導において地域との連携を進めた成果として、就職希望者全員が市内や近隣市の事業所に内定したと考える。今後もインターンシップや就職支援員との連携を充実させ、「自分の適性を生かせる」と意識できる生徒の育成を続けてほしい。	A
	職業理解及び自己理解と進路目標の確立による希望進路の実現	様々な機会において進路情報を提供するとともに、キャリアパスポート等を効果的に利用し、自己理解・職業理解や進路決定に取り組む進路指導を推進する。	4　進路アンケートで８０％の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見付けられそうだ」と回答した。 3　進路アンケートで６０％の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見付けられそうだ」と回答した。 2　進路アンケートで５０％の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見付けられそうだ」と回答した。 1　進路アンケートで５０％未満の生徒が「自分の適性を生かせる職業が見付けられそうだ」と回答した。	4	就職支援員との連携により卒業生全員の希望進路が決定した。3年生以下においても、客観的な検査等で自己の適性を把握する等の工夫もしながら進路目標の設定をおこなっている。各家庭にも生徒の取組や努力が伝わるよう工夫していきたい。 **【卒業生進路決定】100%** **【厚狭高アンケート】「進路学習で適性を生かせる進路が見付けられそうだ」肯定的回答生徒100%/保護者78%**		
環境保健・教育相談	健康管理指導の推進	規則正しい生活習慣の定着に向け一層充実した指導に取り組む。	4　生活アンケートで８０％の生徒が「生活週間が身についている」と回答した。 3　生活アンケートで７０％の生徒が「生活週間が身についている」と回答した。 2　生活アンケートで５０％の生徒が「生活週間が身についている」と回答した。 1　生活アンケートで５０％未満の生徒が「生活週間が身についている」と回答した。	3	基本的な生活習慣は向上してきたが、良好な食生活や健康管理等に関して、一層の意識付けが必要である。保健指導の充実や保健だより、全校集会等での指導を工夫していきたい。 **【厚狭高アンケート】「基本的生活習慣が身に付いた」肯定的回答生徒78%/保護者89%** **【生活アンケート】「3回の食事がとれている」「歯磨きの習慣がついている」等で肯定的回答が50%未満**	食生活や健康の管理は社会で自立して生活するための大切な要素であり、感染防止対策と併せ、引き続き充実した指導を続けてほしい。	A
	学校不適応の未然の防止	定期的に生徒の心の健康状態を確認し、学校不適応等の早期発見・対応を行う。	4　担任による個人面談を年間６回以上実施することができた。 3　担任による個人面談を年間５回実施することができた。 2　担任による個人面談を年間３回実施することができた。 1　担任による個人面談の実施回数が年間２回以下であった。	4	生徒の様子を見ながら、必要に応じて個人面談や家庭訪問を行った。生徒情報の共有にも努め、全教職員で組織的に対応することができた。 **【厚狭高アンケート平均】「生徒の悩みへ素早く対応している」生徒 3.9/保護者 3.6** **【出席状況】長期欠席者なし**		

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
特別活動	学校行事の活性化	生徒どうしに対話と協働的な活動が生まれるように学校行事の運営・指導方法を工夫する。	4　事後アンケートで９０％の生徒が「意欲的に参加した」と回答した。 3　事後アンケートで７０％の生徒が「意欲的に参加した」と回答した。 2　事後アンケートで５０％の生徒が「意欲的に参加した」と回答した。 1　事後アンケートで５０％未満の生徒が「意欲的に参加した」と回答した。	3	生徒会活動を工夫したことで、生徒の対話による協働的活動が充実し、行事の企画・運営に積極的に参画する姿勢が生まれた。今後も学年を超えた活動を充実させ、主体性や協調性を伸ばしていきたい。 **【行事後の生徒の振り返り】「意欲的に参加した」回答が概ね 80%** **【厚狭高アンケート平均】「学校の諸活動に意欲的だ」生徒 3.7/保護者 3.8**	取組方法を工夫したことで、生徒の対話による協働的な活動が充実したことが評価できる。今後、生徒数が減少する中でも主体性や協調性を伸ばせるような取組を期待したい	B
図書・情報	読書活動の充実	本に親しみ、読む習慣を養う授業や活動を推進する。	4　年間に複数の本を借りたり、購入したりして読んだ生徒が多くみられた。 3　生徒の全員が、年間に１冊以上の本を借りたり、購入したりして読んだ。 2　生徒の半数以上が、年間１冊以上の本を借りたり、購入したりして読んだ。 1　年間１冊以上の本を借りたり、購入したりして読んだ生徒が半数未満だった。	3	国語で読書活動に重点的に取り組んだことで、書店や公共図書館等を活用し、日常的に本を読むようになった。また、考査前に学校の図書室で自習を行う生徒も見られるようになった。今後は読書の質を向上させていきたい。 **【読書活動アンケート】** **「生徒年間読書冊数」2 冊以上が 80%以上** **「新書、文学作品等の読書冊数」は平均1冊程度**	ネット社会になり読書離れが進んでいるが、月に１冊ぐらいは本を読む習慣が身に付くように、読書活動の充実を図ってほしい。また、適切にネットを活用する態度や、情報の真偽を見極める能力が生徒に身に付く取組を続けてほしい。	B
	情報モラル教育の推進	生徒・教職員を対象とした情報モラル教育を計画的に行う。	4　情報モラル教室の内容を理解し、生徒の意識が高まり実生活に活かされている。 3　情報に関するルールやマナーに対する知識が増え、生徒の意識が高まっている。 2　情報モラルに関する講義をとおして生徒の意識に変化が現れ始めている。 1　情報モラルに対する意識が低い。	4	情報モラル教室の開催に加え、授業や行事でクラウド等の利用を増やして情報モラルを実践的に学ぶ機会としたことで、生徒がセキュリティーやルールの必要性を実感できた。 **【厚狭高アンケート平均（生徒）】** **「ルールやマナーを意識して ICT を使っている」3.7**		
1年	基本的生活習慣の確立と、意欲的に生活する態度の育成	健全な高校生活を送れるよう、基本的生活習慣を整えるとともに、将来の進路を見据え、自ら考え、実行する姿勢を身に着けられるよう支援を行う。	4　生活アンケート等で全生徒が基本的生活習慣及び卒業後進路に関する項目で肯定的な回答をした。 3　生活アンケート等で二人の生徒が基本的生活習慣及び卒業後進路に関する項目で肯定的な回答をした。 2　生活アンケート等で一人の生徒が基本的生活習慣及び卒業後進路に関する項目で肯定的な回答をした。 1　生活アンケート等で生徒が基本的生活習慣及び卒業後進路に関する項目で肯定的な回答をしなかった。	3	生徒は、本校での学びやアルバイトの経験等をとおして基本的生活習慣を身に付けようと意識的に行動している。自身の進路について早期に目標を定められるように、学習指導、進路指導を進めていきたい。 **【厚狭高アンケート（１年）】「基本的生活習慣が身に付いてきた」に全員がややそう思うと回答**	定時制課程での４年間の学びを見通した計画的な取組の成果が現れている。苦手なことにも逃げずに取り組む態度や、自ら学び続けようとする態度の向上に向けた取組を期待する。	B
2年	生徒に応じた基礎学力の定着	基礎・基本の反復・徹底を行い、基礎学力の定着を図る学習指導を展開する。	4　学習内容の定着のため、すべての科目で主体的な取組がみられた。 3　学習内容の定着のため、多くの科目で主体的な取組がみられた。 2　学習内容の定着のため、いくつかの科目では主体的な取組がみられた。 1　すべての科目で主体的な取組がみられなかった。	2	定期考査において目標を立て、それに向けて事前に学習する時間が増えた。考査前だけでなく日々の家庭学習時間も増やすよう継続的に指導していきたい。 **【厚狭高アンケート（2年】「家庭での学習が増えた」にどちらかといえばはいと回答**		
3年	将来の進路実現に向けた人格形成と社会性の育成	基本的な生活習慣の一層の確立とともに、将来就くべき職業の方向性を見付けることができるよう支援する。	4　自己の適性を理解し、職業について幅広く知識理解を深め、意識が高まっている。 3　自己の適性と職業との関わりや方向性について深く調べ始めている。 2　基本的な生活習慣が確立し、自己分析も進んでいる。職業について考え始めている。 1　基本的生活習慣を確立する途上である。	3	自己の適性を理解し、進路の実現へ向けて努力している。今後は学校外での体験を増やし、社会の中での経験を積み重ねることをとおして、社会性が向上するよう支援を続けたい。 **【厚狭高アンケート（3年】「適性を生かせる職業が見付けられそうだ」にどちらかといえばはいと回答**		
4年	希望する進路先の実現	生徒自らが考え、必要なことを実行し、希望進路の実現ができるように個に応じた進路指導を行う。	4　進路指導等をとおして全生徒の希望進路の実現が図られた。 3　進路指導等をとおして半数の生徒で希望進路の実現が図られた。 2　進路指導等をとおして全生徒の進路を決定することができた。 1　進路の決定ができなかった生徒がいた。	4	生徒全員、進路の実現へ向け努力した結果、進路先を決定することができた。本校での学びを生かし、社会人として基本的な生活習慣を確立させ、責任をもって行動するよう期待している。 **【進路決定状況】就職３　進学１（全員が希望の進路を決定）。全員が「結果に満足している」と振り返っている。**		

評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評　価　基　準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
業務改善	組織的な取組による業務の質の改善	全教職員で各業務の目的を共有し、個々の能力を発揮しながら協働して教育活動を展開する組織づくりを目指す。	4　すべての業務で教職員の協働した取組が行われ、各業務の目的を十分に達成できた。 3　ほとんどの業務で教職員の協働した取組が行われ、各業務の目的を概ね達成できた。 2　業務の目的を共有したり、協働して取り組んだりする機運があった。 1　業務の目的を共有したり、協働して取り組んだりする機運がなかった。	3	主副担当、分掌部内で協議や打ち合わせが積極的に行われ、教職員の協働性が高まってきた。PDCA を回転させ、質の高い教育を提供できるよう、重点目標を踏まえた一層の改善を進めたい。 **【厚狭高アンケート平均（教職員）】目的を共有し協働して取り組んだ 3.4**	教職員の協働性が高まってきていると評価できる。教職員間の連携が一層深まることを期待するとともに、心身ともに健康に業務を進める環境づくりに引き続き配慮してほしい。	B
	南北校舎間の一層の連携強化	南北校舎間での連絡・調整や協議の活性化を図る。	4　南北校舎間で連絡・調整や協議が綿密に行われ、同じ方向を向いて業務が遂行された。 3　南北校舎間で連絡・調整や協議が行われ、互いに歩みを合わせて業務が遂行された。 2　南北校舎間である程度連絡・調整や協議が行われた。 1　南北校舎間の連携はあまり行われなかった。	3	南北校舎の担当者どうしで取組の打ち合わせ等が進められ、連携した教育活動が行われるようになってきた。一層の改善を図りたい。 **【厚狭高アンケート平均（教職員）】南北間で協議し情報共有できている 3.1**		
	教職員の健康への十分な配慮	教職員の心身の健康増進に向け、細かな面談等によるラインケアと、職場内でのピアサポートを推進する。	4　全教職員が心身ともに健康で、活力のある職場環境であった。 3　全教職員が心身ともに健康な職場環境であった。 2　教職員は心身の健康を概ね維持しながら業務に向かうことができた。 1　健康を損ねる教職員が出たり前向きに業務に取り組めない職場環境であったりした。	3	多くの教職員が定時退校をしており、自然体でお互いを労う言葉かけがみられる職場になっている。ストレスチェックでは、依然としてリスクが高い面も見られ、一層の職場文化の改善を図っていきたい。 **【時間外在校等時間】平均 6.1 時間** **【ストレスチェック結果】総合健康リスク指数 123**		

５　学校評価総括（取組の成果と課題）

【学校運営】　生徒の現状に合わせて学習指導や学校行事を工夫するとともに、希望進路の実現に向けて個別の支援を組織的に行う体制が強化され、生徒の学びや生活の状況に変化が見られる。閉課程に向けて教員定数減等を踏まえ一層の改善を図っていきたい。

【学習指導】　ＩＣＴも活用し、生徒が自分一人で学習ができるようになった。今後も主体的に学ぶ姿勢を伸ばし、学力の向上とビジネス資格の取得へ結び付けていきたい。

【生徒指導】　基本的な生活習慣については概ね身に付いてきた。今後も開発的な生徒指導を基本として、正しい規範意識と社会性を養うとともに、他者に対する思いやりの心がもてるように導いていきたい。

【進路指導】　地域と連携したキャリア教育の推進と、個々の適性の把握により進路実現を果たすことができた。今後は、社会性・公共性を伸ばすよう支援し、よりよい進路実現につなげたい。

【環境保健・教育相談】　全員健康診断を受けることができ、健康診断後の受療率も向上した。依然として未受療者の割合が高く、生活習慣の改善についても課題を残している状況である。

【特別活動】　生徒の学年を超えた対話が活発になり、主体的に行事運営に参画する意識が高まった。生徒数が減っていく中でも、できる限り協働的な活動を取り入れる工夫を行い、引き続き生徒の主体性や協調性の伸長を図りたい。

【図書・情報】図書室や地域の図書館を利用する生徒が増え、読書活動に前向きな意識が培われてきた。また、授業や行事でＩＣＴの活用が進んできた。今後は読書の質の向上を図るとともに、引き続きＩＣＴの積極的な活用の工夫を行っていきたい。

【各学年】　各学年とも少人数であり、個々の個性や適性に応じた指導がなされ、学年に応じた成長がみられた。今後も迅速な対応により、より良い成長に向けて指導・支援を一層充実していきたい。

【業務改善】　全教職員で各業務の目的を共有し、協働して教育活動を行う業務体制が整ってきている。心身ともに良好に業務を進めることができる職場づくりに向け、引き続き取り組みたい。

６　次年度への改善策

【学校運営】　生徒・教職員数が減る中で、生徒の個性を伸ばし能力を高める個に応じた支援ができる組織的な体制を整える。

【学習指導】　ＩＣＴをより広く活用し、対話活動を充実させ、主体的、協働的に学び続ける姿勢・能力を伸ばす指導をめざす。

【生徒指導】　「いじめ」や問題行動の未然防止を進めるとともに、生徒たちの人間性や社会性を高めるよう支援を充実させる。

【進路指導】　キャリアパスポートの活用と適性把握により、進路実現のために必要な支援の一層の充実を図る。